

### 月田秀子の昨日、今日、明日…

9月は前代未聞、超多忙の過密スケジュールをこなした。15日から25日まで、16公演をこなしたことになる。会報、ホームページのスケジュールには載せられなかったが、マカオ観光局の仕事がそのうちの8公演ちょうど半分を占めた。幸い台風などの大きな天気の影響もなく、スケジュールは順調に進んでいった。あとは、ミュージシャンの体力勝負。不眠症の月田には、どれだけ「眠れるか」が問題だった。結局平均睡眠時間は多分3時間にも満たなかっただろう。にもかかわらず、最終日の甲府での、生音ライブまで何とか歌いきれたのは、奇跡に近いとさえ思っている。札幌で差し入れてもらった栄養ドリンクもありがたかった。

その甲斐あって、12月マカオでのディナーショーの企画も浮上している。ポルトガルの町並みの面影の残る地での2度目の公演になる。

マカオ観光局のイベントでは、今回、初めての試みとして中国楽器の二胡、楊琴、笛とのセッションで「コインブラ」「涙」を歌った。しなる柳の下で歌う思いがした。悠久なる大河のかたわらの。

こうして原稿を書いている傍らで、電話がひきりなしにかかってくる。今回のマカオ観光局のファドコンサートを聴いてくださった方々からの、CDや、ライブスケジュールの間合せ、ファド倶楽部会員の方々からは、会

報が届かないが、廃刊になったのか？年会費いつ払ったらいいのか？かたや、ファド倶楽部は消滅したのか？(幸い、月田が歌手活動を止めたのか？という不安な問合せはないが……)事務員として対応する月田に、嬉しい言葉あり、棘のある言葉あり、冷や汗かいたり、喜んだり、苦しいしたり、地団駄踏んだり……。

9月23日のアートクラブでのライブは、幸い秋分の日と重なったので、昼公演として、ファド倶楽部の総会も兼ねさせていただいた。といっても、昨年の十周年とは違って変わって、幹事も世話人も頼まず、月田の近況報告が加わっただけで、特別の企画もなく通常のライブと変わりがなかったのだが、日ごろライブに足を運んでもらえない方々とお会いできればと、楽しみにしていた。参加者は、30名足らずと、さびしいものだった。これは、単に私の不徳の為すこととなり、反省している。N氏の言によれば、人を動かす力が欠けているということだそう。権限、権利、義務を与えて、他人に委ねることも時には必要だと。一人ではできないことには限りがある。一人ですべてを抱え込み、転げながら走っている滑稽な私の姿が見える。

♪ワカッチャイルケド、ヤメラレナイド

## 追悼カルロス・パレデシュ

「ポルトガルギターの鬼才、カルロス・パレデシュ死す」の悲報のメールが入ったのは7月24日、長野「北野文芸座」でのコンサートを終え、打ち上げの宴の時だった。93年、脊髄を痛めて以来11年近く病床にあった。彼のポルトガルギターの相方でもあり、晩年の彼の世話をしていたルイーザは、私がパレデシュに会いたいといっても、会っても仕方ないといって、結局病院には連れて行ってくれなかった。

最後に彼に会ったのは、91年の冬になるだろうか？

リスボンのマリア・マトス劇場でのコンサートを終え、海を見たいという私を、ルイーザの運転で、ギンショの浜まで連れて行ってくれた。熱暑による山火事や丸焼けになった真っ黒の松林を走りながら、カーステレオから流れていたのは、デビューしたてのマードレ・デウスのテレザ・サルゲイロの澄んだ歌声だった。カルロス・パレデシュのお気に入りのCDだという。ポルトガル人にもこんなにきれいな高音で歌う人がいるのだと、嗚れ声で歌われるファドしか聴いたことのない私には、その歌声は、とても新鮮に聴こえた。多分、ポルトガル人にとっても同様だったのだろう。見事に炭化した松ばかりをみながら、きっと、ファドも変わってゆくんだろうなと、おぼろげに思ったことを思い出す。そして、確かに、ファドシーンは変わっていった。最近若手のファド歌手が、続々と来日しているが、彼女達は、いともきれいにファドを歌う。最初の頃は、新鮮に聴こえていたその声だが、最近では、ちょっと物足りないものを感じるようになってきた。やはり、一途な情念、悲しすぎるほどの熱情が、ファドには必要なのだ。いや、そんなファドが、私は好きなんだということに最近気がついた。

91年3月、大阪(メルパルクホール)、東京(ヤクルトホール)で開催された「ポルトガル音楽の夕べ」の出演者は、カルロス・パレデシュ(ポルトガルギター)、ルイーザ・アマーロ(ギター)、私の伴奏を務めてくれたのは現在は「マリオネット」として活躍している湯浅隆(ポルトガルギター)、吉田剛士(ギター)の二名だった。構成は、一部は、月田のファド、二部はカルロス・パレデシュのオリジナル曲、祖父にあたるゴンサロ・パレデシュ、父にあたるアルトゥール・パレデシュの変奏曲を含め、17曲の熟演であった。

打ち上げは、京都の料亭。塩分をカットした食事を特別にオーダーしたにもかかわらず、お刺身を器用に箸で摘み上げ、わさびのたっぷり入ったしょうゆにどっぷりつけて、口に運ぶカルロス・パレデシュの、子供のよう無邪気な瞳の輝き、玄関で脱いだ靴のことが心配で、そっと自分の座布団の後ろに隠したしぐさとともに、懐かしく思い出す。通りすがりの果物

屋さんで、日本では、果物がそんなに高いかを知ったのか、それ以降、「何が食べたい？」という問いに、ニコッと笑いながら必ず返ってくる答えが「バナナ」(バナナが比較的安いことを覚えて?)であった。ポルトガルギターの鬼才、巨匠、カルロス・パレデシュは、ホテルでくつろいでいる時、ルイーザの前では、母に甘える無邪気な子供のようだった。けれども、あの柔和な笑顔を支えているのは、彼の人間の尊厳への畏敬の念、人間に対する限りない愛情であることを、私は知っている。彼の眼鏡の奥に光る、じっと見据えるような彼の瞳がそのことを私に教えてくれたから。

そんな二人は、その後来日した公演で、「CANTORA JAPONESA(日本の歌手)」という、オリジナル曲を披露してくれたこともある。必死に曲の由来を説明しようとしたが、結局通訳なしでは、観客にはわからずはすもなく、両手を広げて、あえなくギブアップ、3分ほどのその曲を弾き出した。記録には一切残っていない幻の曲となった。どんな曲？と言われても、思い出せない。ただ、それを私にプレゼントしてくれた彼のやさしさを、私は忘れることはない。カルロス・パレデシュのご冥福を心から祈る。

初めてカルロス・パレデシュの演奏を聴いたのは、87年秋、リスボンの郊外、歴史的モニュメントとしても有名な「バレンの塔」でのサロンコンサートだった。そのときの模様を、同席した湯浅隆氏は、カルロス・パレデシュ追悼文の中で、こう書いている。

＜演奏は圧巻。凄まじいドライブ感に、ただ呆然。フレーズに合わせて、体全体を揺さぶり、猛烈な息づかいで、弾く、弾く、そして、弾く。その確信に満ちたフィンガリングは、楽器の内側に食い込み、音を根っこから引きずり出してくるように見える。弾弦された音は、楽器の限界値で鳴り続け、微妙にずれあう12弦の響きは、まるで「パレデシュ」の意志力で音程を得ているようだ。硬質かつ筋肉質な演奏、外骨格的な身体動き。「パレデシュ」は、音楽を奏でる人ではない。言わば、空間に音楽の岩を構築するのだ。

「パレデシュ」の音楽に「サウダーデ」があるとするならば、それは完成された「型」に漂う凍りとした寂寥感ではないか。それは、「ファド」が醸し出す「サウダーデ」とは似て非なるもの。「ファド」は歴史を背にして歌うが、「パレデシュ」は歴史に対峙して弾く。「パレデシュ」の音楽は、16世紀初頭建造・マニエル様式「テジョ川の貴婦人」の異名をとる(しかし、政治犯の地下牢をもつ)バレンの塔の内部ですら、毅然と自身の岩を構築し、結果、歴史と拮抗していた。＞ (ラティエナ9月号より)

計報を知らせたメールの返信に、湯浅氏はこう書いてきた。

「覚悟はしておりましたが、ただ、ただ無念です。これからは【アマリア】と【パレデシュ】を、リアルタイムで知らない世代が、どんどん出てくるのですね……」



## 走れ秀子！ 大忙しの9月が過ぎて…… インタビュー おそろおそろ聞いた人 きうびい

ノリにのってる月田秀子、怒涛の連日公演を終え、ほっとひといき。9月最後のライブ、甲府・貢川でのアートフェスタの翌日、帰路の「特急あずさ」にて行ったインタビューの模様をお届けします！！

いやー、それにしても月田さん、忙しかったですねえ9月は。「そうねえ、まあほんとによくやったわよねえ」電車に乗る前、好物の駅そばをがっちりお召し上がりになり、リラックスした表情。今回もおそばはやはり各地で？「それがなんだか忙しくて、立ち食いそばも食べる時間なかったの。ビールばかり飲んでたわ」あら、忙しくて飲むことは忘れないんだ。「長丁場だから極力セーブしたけど」ホント？「だけど、控え室に入るとすでに一本ワインが用意されていたりするところもあったのよう（笑顔！）」……やはりアルコールは必要不可欠らしいです。そうそう、スケジュールに記載されている以外にも公演があったようですが、いったい合計で今月は何公演？「24かな。一日三回、ってのもあった。ドレス着たまま東京の道走ったりしたわよん。」ひー、ショールは風になびかせて……？そんなに忙しいと忘れ物なんかはしませんでしたか？「私はカンペキな人間だから忘れ物なんて（ふんっとう髪をかきあげる月田さ

ん）失礼いたしました。「あー！」何？！「あったあった。あのね、仙台行ったとき帰りに牛タンが食べたくなって、頭ん中牛タンでいっぱい、荷物忘れたの！」……どこがカンペキなんじゃ……まあでもそりゃ大変だ！大丈夫でした？「（にやり）後ろ振り向いたら、ギタリストに「やっと思ひ出しはりました？」と一声。すごい勢いで走り出す私の後を、私の荷物を転がしながら必死で追いかけたらしいの。」気が利きますねえ、さすが、一家に一台じゃなくて一人の保さん。「だけどね、聞いてくれる？」ななんですか急に大きな声だして。「群馬の太田でね、公演前に、ビールを一本だけ密かに頼んでおいたの。何か胸騒ぎがするので、メークそこそこで、控え室に行ったらさあ」月田さん、目が怖いですよ、どーしたんですか。「ギタリストがあたしのビール飲んでたのよおおっ（手で顔を覆う）！！わーっ！！」……酒の恨みは怖いんだナア。まあ、でもほら、そういう勘違いもときにはあるし、ね、そんな怖い顔しないで。「怖くないわよっ！（だからコワイってば）……そうね（急に哀しげな表情）……」

そろそろしめましょか。今回の連続公演で印象に残ったことは？「うーん、やっぱりね、声出し続けていると、出てくるものなのよね！」いいですねえその笑顔！

来月も多忙な月田秀子。ますますガンバッテ！  
「ガンバルワヨー」（おしまい）

## 相沢幸男氏の死を悼む

1989年、帰国後初めて東京で開いたコンサートの名簿の中に、その名前を初めて見た。会員の高島氏の紹介だった。以後、ご自分の膨大なレコードコレクションから、さまざまなファドを一昔前はテープに、最近ではCDにダビングして、丁寧にコピーされたジャケット、解説とともに、送り続けてくださった。なかなか歌う場がないと、こぼす私に、駄洒落の名手は、いつもその得意技で心を和ませてくれた。晩年は、私の父の「メルトモ」で、メールで熾烈な駄洒落合戦を交わしていたようだ。今年の4月に、中野の「カルタゴ」というエスニック料理のお店でご馳走になった。昨年の癌の手術以来、初めてだといいいながら、ワインをいとおむようにグラスを傾けていた姿が思い出される。その後、6月の草月ホールのクリスティーナ・ブランコのコンサート終了後、あふれる観衆の中から、私を見つけ出してくれた氏の声を出すのもやっとな身体を支えるようにして会場を出、暗闇にころうじて立っている氏に、「ちゃんとお肉ついている？」笑いながら、骨ばかりになった彼の身体を抱いた。「こんなになっちゃたよ」力なく笑いながら答える顔には、生気が失われていた。それが、最後になるなんて……。もう二度とマヌエルにひょっこり顔を出すこともないなんて、駄目だよ。いやだよ。許さないよ。私、もっと、うまくなって、あなたを唸らせてやりたかったのに……。

奥様からの手紙で、9月4日早朝に、氏が逝ってしまったことを知ったのは、9月の半ばの残暑の厳しい昼下りのことだった。3度の入院、1年半の癌との戦いを一人で支え、共に戦い、最後を看取った奥様の、ぼろぼろになった体で、一人尽きることのない悲しみのどん底から、残された命を振り絞って書いたような筆跡だった。

知人に、「ますます空に向かって歌うことが多くなった」とこぼしたら、すかさず「たくさんさんのファンがいっぱいいるのですから、その方々に向かって、しっかりと歌って下さい」とのお叱りをいただいた。

小学校の5年生頃だったろうか、「死」の観念に取りつかれ、自分がこの世から消えてなくなることへの畏れに、一人トイレで泣く日が続いたことがある。今は、自分が消えてゆく畏れと言うよりも、人は、誰しもが、いずれ、遅かれ早かれ、この世

からいなくなっていく、という逃れようのない悲しみに心震わせることが多くなった。そして、ファドは、ますます私の心の中にしっかりと棲みついていく。

相沢氏が、月刊ラティーナの「OPINION」コーナーに投稿してくださった文章を、ご紹介しながら、ご冥福をお祈りしたいと思う。インターネットも、ホームページもない時代、マイナーな月田を何とか一人でも多くの人に知ってもらいたいという、相沢氏の苦肉の策が、この投稿だったのだと思う。

心からの謝辞をこめて、私は、やはり、空にいるであろう、風になったであろう、氏に向かって歌う。

### 月田秀子・アマリア追悼コンサート

相沢幸男

スクリーンに画面が現れた。あのフランス映画「過去を持つ愛情」のなかで、アマリア・ロドリゲスが「暗いはしけ」を歌うシーンが音もなく流れていく。去る10月6日に79歳で亡くなったアマリアの歌をつづる月田秀子の声が響く。アマリアに傾倒し、アマリアを慕い、目標としてきた月田が、年末恒例の二都コンサートをアマリアへの追悼プログラムで埋めた。

「暗いはしけ」「さながら神の」、75年にフランス・レコード大賞をとったアルバム「どんな声で」「難船」「コインブラ」「このおかしな人生」、83年に発表した自身の作詞曲「涙」、やはり自作の詞である2曲「洗濯」「私の中のファド」、47年の映画「ファドある歌い女の物語」で歌っただけでレコードにない曲「それぞれのファド」など。

シャンソンから出発した月田は、87年にアマリアの歌声に衝撃を受けて、ファドの歌い手になり、アマリアのレパートリーを歌いつづけてすでに10年、関西を本拠にしてライブハウス、テレビ出演、97年からは五木寛之トークショーのゲストとして各地の講演に出演するなど多彩な活動をしてきており、CDも3枚発表して、ファド一筋に歌ってきた。アマリアの死は月田にとっては大きな心のよりどころを失ったことであろうが、この夜はアマリアへの感謝を込めてしっかりと歌っていた。日本にファドを知らせてくれたアマリアの持っている「サウダーデ」を受け継ぐ月田秀子の、新しい道のりへ向かうスタート・コンサートでもあったように思われた。

アマリア・ロドリゲスさん、すばらしい歌と思い出をありがとう。

（月刊ラティーナ2000年1月号「Opinion」より）

# informação

●10月から、四谷での「マヌエル・カーザ・デ・ファド」に加えて、渋谷・松涛の「マヌエル・コジーニャ・ポルトゲーザ (Manuel Cozinha Portuguesa)」での定期ライブ (毎月第三火曜日) が新たに決まりました。20名ほどしか入れない小さな家庭的な雰囲気のあるお店で、ポルトガルの伝統的な家庭料理をお楽しみいただいた後、ファドライブを堪能していただけます。ライブは、20:30~21:30の一回のみ。遠くからのお客様にもお越しいただけるのではないかと思います。

●10月より、四谷の「マヌエル・カーザ・デ・ファド」でのライブ開始時間を、従来より30分早めました。各ライブ開始時間は以下のとおりになります。(各ステージ約20分。入れ替えはありません。)

1st. ステージ: 20:30 2nd. ステージ: 21:30 3rd. ステージ: 22:30

●「マカオを深く歩く旅—マカオの夜をファドコンサートで楽しむ—」4泊5日のツアーをワールド航空サービスが特別企画してくださりました。旅行日程: 12月1日~5日、旅行代金: 148,000円~です。詳細、パンフレット等ご希望の方は、ファド倶楽部 (tel/fax:03-3458-9806) までご一報ください。

## CD 「ギターに寄せて SAUDADE DE GUITARRA」

発売中

定価2,000円 (税込)

「ファドの月田秀子」が初めて、ファド以外の唄に本格的に取り組んだ。静かに語りかけるような彼女の歌唱は、大スタンダードの「ジャンーギター」でも独特の世界を造りあげている。河島英五の作品「生きてりゃいいさ」も、メロディも詞も、「フォーク」なのにコンチネンタルな味わいが新しい魅力を生んでいる。」 (2003年CDジャーナル評)

<収録曲>

ギターよ教えておくれ/ジャンーギター ギターよ静かに/生きてりゃいいさ 夕映えのリスポン (INST)  
汽車は八時に出る/モーラリアの恋人 (INST) モーラリアは夜/たやすく (全9曲)



<お申し込み方法>

月田秀子ファド倶楽部まで、お電話、FAX、ホームページのCDオンラインにてお申し込みください。(送料200円)

# fados canções

## ALGEMAS

Letra e Musica : Alvaro Duarte Simões

## 枷

訳詞 カウド ヴェルデ

Escravos errantes da vida  
E da angustia de viver  
Somos a imagem esbatida  
Do que nos quisermos ser

私たちは 人生に 生きていく不安に  
迷い歩く囚われ人  
思い描く理想には  
ほど遠い自分の姿

Corta-se embora a corrente  
Que nos prende ao que e vulgar  
E afinal tudo é diferente  
Do que queremos alcançar

たとえ卑俗なものに縛りつける  
鎖が断ち切られても  
結局 たどり着きたいものとは  
すべてが違う

Sem saber porque vivemos  
No misterio de existir  
Nem mesmo ao sorrir esquecemos  
A mentira que é sorrir

なぜ生きているのかわからないけれど  
今ここに在るという不思議さの中で  
ほほ笑んでいる時ですら 忘れてはいない  
ごまかしで 笑みを浮かべていると

Desde sempre que conheço  
Porque a vida me ensinou  
Que o riso é sempre o começo  
Do sorriso que findou

ずっと前から知っていた  
人生が教えてくれたから  
笑い声は いつもほほ笑みが  
消えたときに始まると

Prendo o mundo nos meus braços  
Quando me abraças nos teus  
E por momentos escassos  
A terra da-nos os ceus

あなたに抱きしめられる時  
この世の全てがいとおいしい  
そして ほんの束の間  
この地が天上を授けてくれる

A vida fica suspensa  
Do nada que a fez nascer  
E esse nada recompensa  
Da tortura de viver

けれど 人は何もない中に生まれて  
たいいそのままにいる  
そして この何もないことが  
生きていく辛さの救いとなる

訳者のひとこと

<人生に枷はつきもの。その人の置かれた状況、時代、生まれ、国、場所、その他自分の選ぶことのできないものは、一種の枷ですね。しかし、好んで枷を作ることもあるのが人間……。>



## ＜月田秀子のスケジュール＞

10月19日(火)	東京・渋谷「マヌエル」 *要予約 開場：18:00 ライブ：20:30～(約1時間)	予約・問合せ：tel: 03-5738-0125 料金：6,000円(特製コースディナー・ライブチャージ込み)
20日(水)	東京・四谷「マヌエル」 *要予約	予約・問合せ：tel: 03-5276-2432
21日(木)	「NOITE DE SAUDADE Vol.14」 ①20:30 ②21:30 ③22:30	チャージ：2,500円(入れ替えなし) *ライブ開始時間を試験的に30分早めました。
22日(金)	新潟・だいしホール「ファドのタベ」 開場：18:00 開演：18:30	問合せ：tel: 025-243-1800(星山) 主催：新潟ファド愛好会 前売り券：3,000円(全席自由)
23日(土)	青梅・「蔦蔵」(まゆぐら) *要予約 開場：17:30 開演：18:00	予約・問合せ：0428-21-7291 青梅市西分長3-127 料金：4,500円(ワンドリンク付)
24日(日)	東京・銀座「サンボアバー」 *要予約 開場：13:00 開演：14:00	予約・問合せ：tel: 03-5568-6155(サンボア) チケット：4,000円(ワンドリンク付) ♪本格的バーでの小粋な日曜の昼下がりをついでに!
26日(火)	神戸・三宮「あいり」 *要予約 開場：18:00 開演：19:00	予約・問合せ：tel: 078-241-1898 料金：4,000円(料理・ドリンク付)
27日(水)	京都・四条河原町「巴里野郎」 ステージ：①20:00 ②21:00 ③22:00	予約・問合せ：tel: 075-361-3535 チャージ：3,500円(入れ替えなし)
28日(木)	大阪・心斎橋「アートクラブ」 ステージ：20:00から3回(入れ替えなし)	予約・問合せ：tel: 06-6212-2870 チャージ：2,800円
29日(金)	大阪・南方「三裕の館」 ステージ：①20:00 ②21:00	予約・問合せ：tel: 06-6304-1745 料金：5,000円(ワイン・オードブル付)
30日(土)	福井・松本町「サライ」 *要予約 開場：18:30 開演：19:00	予約・問合せ：tel: 0776-27-1204 チケット：6,000円(ワンドリンク付)
31日(日)	金沢・片町「茶房犀せい」 *要予約 開場：18:30 開演：19:00	予約・問合せ：tel: 076-232-3210 前売り券：5,500円(ワンドリンク付)
11月6日(土)	小諸「小諸ユースホステル」 開場：18:00 開演：19:00	予約・問合せ：tel: 0267-23-5732 チケット前売り：3,500円、当日：4,000円(1ドリンク付) ♪懐かしいユースホステルに泊まって、浅間山の秋を満喫してみませんか?ライブ・打ち上げ・宿泊パックもあります。
16日(火)	東京・渋谷「マヌエル」 *要予約 開場：18:00 ライブ：20:30～(約1時間)	予約・問合せ：tel: 03-5738-0125 料金：6,000円(特製コースディナー・ライブチャージ込み)
17日(水)	東京・四谷「マヌエル」 *要予約	予約・問合せ：tel: 03-5276-2432
18日(木)	「NOITE DE SAUDADE Vol.15」 ①20:30 ②21:30 ③22:30	チャージ：2,500円(入れ替えなし)
23日(火)	大阪・堺「能楽会館」 開場：13:30 開演：14:00	予約・問合せ：tel: 072-233-8188(森山ひろゆき事務所) 前売り：3,000円 当日：3,500円
24日(水)	京都・「巴里野郎」 ステージ：①20:00 ②21:00 ③22:00	予約・問合せ：tel: 075-361-3535 チャージ：3,500円(入れ替えなし)
25日(木)	大阪・心斎橋「アートクラブ」 ステージ：20:00から3回(入れ替えなし)	予約・問合せ：tel: 06-6212-2870 チャージ：2,800円
26日(金)	大阪・南方「三裕の館」 ステージ：①20:00 ②21:00	予約・問合せ：tel: 06-6304-1745 料金：5,000円(ワイン・オードブル付)
12月14日(火)	東京・渋谷「マヌエル」 *要予約 開場：18:00 ライブ：20:30～(約1時間)	予約・問合せ：tel: 03-5738-0125 料金：6,000円(特製コースディナー・ライブチャージ込み)
15日(水)	東京・四谷「マヌエル」 *要予約	予約・問合せ：tel: 03-5276-2432
16日(木)	「NOITE DE SAUDADE Vol.16」 ①20:30 ②21:30 ③22:30	チャージ：2,500円(入れ替えなし)
22日(水)	京都・「巴里野郎」 ステージ：①20:00 ②21:00 ③22:00	予約・問合せ：tel: 075-361-3535 チャージ：3,500円(入れ替えなし)
23日(木)	大阪・心斎橋「アートクラブ」 開場：14:30 開演：15:00	予約・問合せ：tel: 06-6212-2870 料金：6,000円(オードブル・ドリンク付) ♪昼公演です。夜出られない方はぜひこの時に! オードブルの一品に月田特製の鱈のコロッケが付きます!
24日(金)	大阪・南方「三裕の館」 ステージ：①20:00 ②21:00	予約・問合せ：tel: 06-6304-1745 料金：5,000円(ワイン・オードブル付)

### ＜編集後記＞

地縁、血縁等の人との絆の希薄な私にとって、同時代を生きてきたもの同士の懐かしくて肩の凝らない集まりが同期会である。転校のなかった中学が特に楽しい。幼く貧しかった頃の自分にそれぞれが帰る。えぼっていた子も今ではかわいいもの。ファドを通してのそれぞれの出会いも、そうでありたいと思う。同時代に巡りあったもの同士として、年齢、性を越えて、共に生きていることを心ひそかに喜び合えるようなライブを続けてゆきたいものだ。品川運河沿いのはなみずきも赤い実をつけた。上京して3年目の秋。再会を期しながら。(月田)

### 月田秀子ファド倶楽部ホームページ

<http://www.fado.jp/>

- 月田秀子ファド倶楽部ジャーナル 第44号
- 2004年10月10日発行(季刊：年4回発行)
- 編集・発行「月田秀子ファド倶楽部」事務局
- 〒108-0075 東京都港区港南1-8-27 日新ビル1406号
- TEL&FAX 03-3458-9806